

HARDY'S Pat.
"CONTRACTED PERFECT"
REEL



HARDY BROS.Ltd.,
ALNWICK,ENGLAND

The
"Special Perfect"
Reel

THE GREATEST IMPROVEMENT IN MODERN REEL



BRIT,PAT,NOS,145904&U,S,A,369287
DUPLICATED,MARK II

HARDY BROS.,Ltd., ALNWICK



LONDON:61,Pall Mall, S.W.1.

MANCHESTER,12 to 14,Moult Street

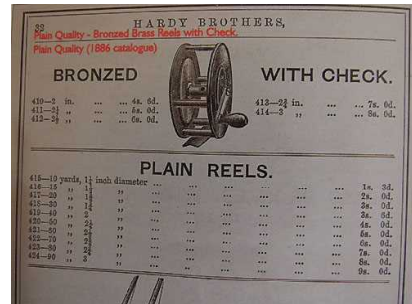
EDINBURGH,101,Princes Street

BRASS REEL 1886 年頃～ 初期型フライリール

初期型のフライリールはブラス（真鍮）を中心に削りだして作られています。写真は 1896 年のカタログに登場したクランクハンドルのある両軸リール。



クリックは金属のタン（クリッカー）を両側から細い丸棒で抑える、キャリパー型チェック。しかし丸棒はロー付けされただけのシンプルな構造です。



右のリールは 1800 年代から英国で主流だったウィンド・プレート式のリールです。基本構造は両軸ですが、ハンドルが円盤になっています。この形状のリールを総称してパーミングスタイルと呼ばれています。スプール交換は出来ませんし、回転プレートもビスで固定されていますので、取り外しは出来ません。クリッカーもシンプルな構造で、ドラッグを強くしたいときは回転プレートを外して、中に入っている板バネであらかじめ調整します。



サイズも各サイズリリースされましたが、ブラスですので、現代に普通に使うのであれば 3 インチ以下でしょう。

その後、3 ピース構造の PERFECT が登場することによって姿を消していきますが、ある意味 PERFECT の原型といっても良いかもしれません。

またこの頃のリールはロッドインハンドの刻印が使われています。



PERFECT 1896 ～

HARDY のリールを一躍不動のものにしたのは PERFECT だと言っても過言ではないでしょう。それまでの両軸タイプからスピールの脱着を可能にした 3 ピース構造は、当時画期的だったに違いありません。構造は回転プレートでスピールを固定する方法です。



初期型は裏側に逆ネジのビスで固定するため、さらにしっかりとスピールを固定できます。回転プレートと本体の摺動面にはスラストベアリングが付いているので、プレートの軸方向の摩擦を軽減しています。



このベアリングの付いていないモデルも発売されました。この手のリールは通称「ユーノック」と呼ばれています。1917 チェックの時代に良く見られます。

材質は一般的にアロイと呼ばれるアルミ合金の鋳造。

PERFECT の変遷

PERFECT の基本構造は変わりませんが、長い歴史の中でいくつかのモデルチェンジを繰り返してきています。これらの変更はチェック（クリック）の改造の年代で呼ばれるのが一般的です。そしてこれは他のリールにも当てはまります。

右から 1896 チェック、1912 チェック、MK II チェック、1917 チェック



外見上の違いはレギュレータの形状にあります。1896 ～ 1912 までのレギュレータノブは、ストラップド・テンション・スクリューと呼ばれ、ダイヤルビスの上に固定金具が付けられています。（右）さらに 1912 までのツマミはアイボリン（人工象牙？）で、1917 にはセルロイド（上の写真の右）が使われたものもあります。その後はエボナイト（黒）に統一されたようです



チェック機構

1896 チェック

通称キャリパーチェックと呼ばれるクリックシステム。
タン（クリッカー）を平の板パネで両側から抑えることでテンションをかけています。
またテンションの調整が出来るように、レギュレータ機構も付いています。
レギュレーターノブはストラップド・テンション・スクリュー。

1906 チェック（下）



1917 チェック

1912 チェックをより簡素化したのが 1917 チェック。
MARK I チェックと呼ばれることもあります。タン（クリッカー）はワンタッチで取り外すことが出来、レギュレータも洗練されてストラップが外れました。

見た目にシンプルに、さらに機能的にも完成して来ています。
この時代のリールはアルミのロングフットが付いているものが多く見られます。

1896 チェック



1906 チェック

基本構造は 1896 と変わりませんが、キャリパーズプリングが縦方向になっています。
これによってクリッカーにスプリングが当たる面積が増え、さらにテンションがスムーズになっています。
またレギュレータの内部構造もシンプルになってきています。

1912 チェック

PERFECT 史上最も美しいと言われる 1912 チェック。それまでのキャリパー型から、タンを下からテンションをかける方式に変わっています。
そして、これが後のリールのスタンダーになっていきます。
またスプリングを圧縮してドラッグ調整を行うようになりました。
生産期間も短く、一番人気の PERFECT です。



(DUPULICATED) MARK II チェック 1922 〜

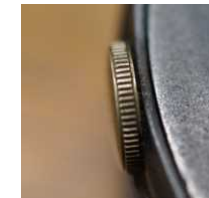
1920 年代初頭に登場する MK II チェック。
1917 チェックに予備のスプリングとタンが付きます。これらはあくまで予備ですので、この状態で使用することは出来ません。

そしてさらに発展した MK II チェックがリリースされます。（写真下）
一見上の写真と同じように見えますが、下のクリックはこの状態でタンを立てれば即クリックとして使用できます。
すなわちダブルクリックとしてさらに強力なテンションを可能にしています。

このことを DUPULICATED MK II と解釈するのが妥当かとも思いますが、フェイスプレートの刻印は 1917 の時代のもので DUPULICATED の刻印があるものがあります。
モデルチェンジの間と考えれば分かりますが、上のチェックが初期だと考えれば、下のチェックは後期。従って、初期のモデルとの間だったと考えれば、上のチェックからが DUPULICATED と言うことになります。
このへんは意見が分かれるところでもあります、分かりません。
いずれにしても PERFECT の完成形だと思います。



チェックの構造でそのリールの年代は大まかに推測できますが、具体的に特定することは難しいようです。
一つの目安として、レギュレータノブのロレットの形状があります。しかしながら斜めカットが古い年代というくらいかもしれません。
さらにフェイスプレートの形状も 2 種類あります。あるミリベットタイプ（写真左）は 1917 の後期当たりから見られるようです。



その他の PERFECT

標準の PERFECT のトラウト用（ナロードラム）のサイズは下記の通りです。
2-7/8、3-1/8、3-3/8、3-5/8、3-7/8
サイズは外径を表しています。1 インチが 25,4mm で、さらに 1 インチは 8/8 インチですので、容易にミリに変換できます。
当時のリールはシルクラインが基準となりますので、現在のナイロンラインとはキャパシティが違います。
概ねのキャパシティとサイズは下記を参考にしてください。

2-7/8	・・・	#3/4	外径	73mm
3-1/8	・・・	#4/5	外径	79mm
3-3/8	・・・	#5/6	外径	86mm
3-5/8	・・・	#6/7	外径	92mm
3-7/8	・・・	#7/8	外径	99mm

SALMON PERFECT

さて、通常の名ロードラムの他にワイドスプールのサーモンリールがあります。

一般的なサイズは 3-1/2、3-3/4、4、4-1/4、4-1/2。
このほかに 2-3/4、3、3-1/4 などがありますが、絶対数は少ないと思います。
また、サーモンリールはサイズが大きい方が世界的に人気は高いようです。
ガイドリングは回転式のニッケルガイドリングになります。
現在でもツーハンドロッドと組み合わせると非常に見栄えがしますが、ロングフットが標準ですので、リールシートを選んでしまうところが残念です。



SPECIAL PERFECT 3-1/4

トラウト用でラインキャパシティをより増やす目的で製作されたのがこれです。
普通の PERFECT よりも若干ワイドです。
製作は 1905 年～ 1939 年ですので、チェック機構も通常の PERFECT と同じ年代に相当します。
またフットはアルミリブフットが標準だったようです。

製作台数は限定的で、現在では非常に手に入りずらくなっているリールの一つとなっています。

シリーズは 1906、1912、MK II。



St.GEORGE

PERFECT が質実剛健であれば、St.Geolge は非常にエレガントなイメージのリールです。
HARDY の高級フライリールの両翼と言えるでしょう。どちらも屋台骨を支えたロングセラーモデルで、いまだにリメイクモデルがリリースされています。

発表は 1911 年とあります。サイズは Jr の 2-9/16、3、3-3/8、3-7/8。



圧倒的に人気のあるのは Jr、と 3 インチ。
ラッチカバーを 3 本のビスで固定しています。これがスリースクリューと呼ばれる所以です。
このワンタッチリリースの方式は現在に至るまで多くのリールに採用されています。
HARDY の高級リールに付きもののガイドリングはメノウ（AGATE）とニッケルシルバーの 2 種類。

また裏面に刻印が押してありますが、リールに沿ってラウンドした文字で刻まれています。
これをラウンドロゴ、あるいはオーバルロゴと呼び、30 年代までの特徴でもあります。



40 年代からは 2 スクリューの黒鉛モデルも存在したようです。

また後期モデルになると刻印はストレートに変更になります。（写真下）
そしてこのデザインは戦後のエナメル塗装モデルまで続きます。



リードフィニッシュ

一般的に黒鉛とは英語のリードフィニッシュの和訳で、実際には表面処理剤。
当時のさび止めみたいなものでしょう。現在では黒染めあたりが一番近いかもしれません。
これが経年変化で色落ちしてくると渋みを増してきます。
これがこのリールの魅力の一つです。
実際に新品の状態で見るとは希ですが、右のリールはそれに近いかもしれません。
艶があって塗装ともアルマイトとも違う質感を醸し出しています。
戦時中には銃器に使われて不足したものと推測します
そして戦後からはエナメル塗装に変わりました。



St.GEORGE マルチプライヤー

1927 年～ 39 年にかけて少量生産されたマルチプライヤーリール。

ベースは St.George ですが、フェイスは PERFECT に似ています。

違和感のあるデザインながら、作りもしっかりして、質感も抜群で、当時としたら画期的だったに違いありません。

ギア比は 1:2。

ハンドルを一度回転させると、スプールが 2 回転します。

現在ではマルチプライヤーは同軸で作るのが普通ですが、この時代のリールではオフセットハンドルを持つフライリールを見ることが出来ます。

VOMHOFE でもオフセットの S 字ハンドルのサーモンリールが存在します。

一見ベイトリールに見えますが、フライリールではハンドルとスプールは同じ方向に回りますので構造が違います。

そのためギアは 3 枚の組み合わせになります。



それにしても S 字ハンドルや、クランクハンドルにせずに、バーミンガムプレート式のマルチを作るのですから、流石に HARDY。

面白い発想です。そして非常に興味深いリールです。生産台数も少なく、レアなリールです。サイズは 3-3/8 と 3-3/4 の 2 種。

St.GEORGE 3-3/4

こちらは最大モデルの St.GEORGE。ライトサーモンからトラウトまで使用できます。現在ではツーハンド用に人気があります。またフットはバレットフットという、砲弾型のプラスチックフットを装着したモデルも多く、このまま現在のロッドで使えます。スリースクリュー、黒鉛、ラウンドロゴ、メノウガイドリング。



UNIQUE 1903 ~

HARDY の中でも比較的廉価版のリール、それが UNIQUE です。

しかしながら世界中に多くのファンを持つのも事実。PERFECT に比べて重量が軽く、特に低番手のライン用には実用的なリールです。

初期型のチェックはキャリパーチェックを採用していますが、1920 年代頃からは MK II チェックを搭載しています。

一番の特徴はラッチにあります。

1933 年頃までは平たい板のスプリング力を利用したラッチで、馬蹄型をしていることからホースシューラッチと呼ばれています。(右)



その後のモデルチェンジでスプリングを内蔵した立体的なラッチに変更になります。パテントナンバーが刻まれたこのラッチは、受話器に似ていることからテレフォンラッチと呼ばれるようになりました。(左)



このラッチのデザインは見事です。また廉価版と言うこともあって、ほとんどの UNIQUE にはレギュレータが付いていません。しかし、小径でレギュレータ付きは非常に人気が高く、入手は難しくなっています。(写真下)

一般的なサイズは 2-5/8、2-7/8、3-1/8、3-3/8、そして 3-5/8 です。人気は小型ほど高く、最小型は高値になってきています。とはいえ、PERFECT や GEORGE に比べればまだまだリーズナブルです。



特に日本の溪流にはピッタリのサイズですので、バンブーロッドやグラスロッドに合わせれば良い雰囲気が楽しめます。

またこのリールの欠点として、センターピンの上部とスプールのブッシュが真鍮ですので擦れやすく、ガタツキが出やすいという事があります。

ワイドモデルのサーモンタイプもありますが、ここでは省きます。



LIGHTWEIGHT

LIGHTWEIGHT シリーズは 1936 年に発表されているようです。
この頃は穴無しの 3 スクリューモデルで、今では非常にレアなリールです。

しかし、ここでは一般的な戦後モデルを中心に簡単に紹介します。

LIGHTWEIGHT シリーズの第一弾は LRH。
HARDY のそれまでのリールと比べても圧倒的に軽量化されています。シンプルで洗練されたデザインは近代フライリールの模本となりました。
1950 年代の初期モデルの特徴は、ピラーが 4 本あります。そしてその一箇所に L 型のラインガードが付きます。このラインガードがピラーの内側に入っているタイプを通称インナー L と呼び、ファーストモデルの象徴となっています。

実はこのラインガードの位置がそれまでの PERFECT 等のガイドリングと同じ位置に来るように設計されているため、ピラーを 4 本にしたのだと考えられます。



インナー L



アウトター L



ラージ U (刻印)



ラージ U

ラインガイドの変遷は上の写真を参考にしてください。
インナー L の後がピラーの外側にラインガードの出ているタイプで、通称アウトター L。
さらにその後はピラーが 3 本に変更され、ラインガードの形も大幅に変わります。
このガイドをラージ U、あるいは 2 本のビスで固定しているため 2 スクリュー・ラインガードとも呼びます。

チェックシステムは L 型ラインガード及びラージ U の初期型 (1960 年代初頭) までは MARK II チェックが搭載されています。
その後、左右巻き兼用のモダンチェック (現行品) へと推移していきます。
また塗装の色も比べてみると若干違ってきます。

詳しい年代は、年表を参考にしてください。

LIGHTWEIGHT シリーズ

このシリーズは小型からサーモン用の St.ANDREW まであらゆるサイズにシリーズ化されています。

後にマルチプライヤーも加わり、ほとんどの分野をカバーしてくれます。
まさに一世を風靡したと言っても良いでしょう。

右の写真は HUSKY。
ワイドスプールのライトサーモン、サイレントドラッグ搭載モデルとマルチプライヤー。
ライトスペイやスイッチロッドにはピッタリです。



シリーズは下記を参考にしてください。

FLYWEIGHT	2-1/2	#2/3	1961~
FEATHERWEIGHT	2-7/8	#3/4	1959~
L.R.H	3-3/16	#5/6	1951~
PRINCES	3-1/2	#6/7	1962~
St.AIDAN	3-3/4		1964~
St.ANDEW	4-1/8		1962~1969
HUSKY	3-3/8W	DT10	1964~
ZENITH	3-3/8W	DT10	1958~

サイレントドラッグ



LIGHTWEIGHT シリーズのサイレントドラッグは左記の 2 種類があります。
通常のディスクドラッグは下ですが、アメリカ仕様のサイレントは上の形状が使われていることがあります。
また下は HUSKY、上は FLYWEIGHT、FEATHERWEIGHT といった小型リールに良く見られます。
A&F とのダブルネームはほとんどがこれです。



トリガーラッチ

60 年代までのラッチは銃の引き金のような携形状をしていることからトリガーラッチと呼ばれています。
ゴミがラッチカバーに入らないような仕組みですが、こんな細かなところまで手を抜いていないのには驚かされます。



その他のリール

St.JOHN

St.John の発表は 1923 年。
サイズは 3-7/8 で St.GEORGE よりも若干大きくなります。
St.GEORGE と同じようなフォルムを持ちますが、こちらはガイドリングは無く、現代のフライラインではより実戦向きです。
ラッチは 3 スクリューでラウンドロゴ。
戦後にリメイクされましたが、やはりこの時代の質感には敵いません。

PERFECT に比べ軽量で、スイッチロッドやツーハンドロッダーには根強い人気があります。



SUNBEAM



UNIQUEA をよりシンプルにしたデザインの SUNBEAM。
HARDY のエコノミーモデル。サイズは 2-3/4、3、3-1/4。

バックプレートに真鍮の丸棒でラインガードが取り付けられただけのデザイン。サイレックスとユニーカの合体リールのような形です。もしかししたら部品も共通なのかもしれません。



フットも板金で作られていますので、かなりのコストカットされたリールです。
チェックもシングルです。
発表は 1924 年。初期型のラッチはホースシューで、後にテレフォンに変更。
しかしながら質感や作りもしっかりしていて、安っぽく見えないところがさすがは HARDY。

ELAREX

フライリールではありませんが、HARDY のベイトリール・ELAREX。ダイレクトドライブ。
ファーストモデルは 1939 年ですが、その後モデルチェンジを繰り返して 1964 年まで作られました。非常に機能美に溢れたベイトリールで、実際にこのリールを使わなくても所有欲を刺激されます。
HARDY らしさが随所にちりばめられたすばらしい出来です。



戦中モデル

ブラックペイントとスピットファイヤー

第二次大戦中に製作されたリールには、いろいろな特徴があります。
部品在庫を組み合わせて作ったと思わせるリールも数多く存在しています。
中でも通常スピットファイヤーと呼ばれる無塗装のリールは有名です。
同じ戦中モデルでも、黒くペイントされたブラックペイントモデルがあります。戦後のエナメル塗装と比べても非常に安っぽいラッカーの様な仕上げで、塗装も剥がれやすくなっています。



右上の写真の上はほぼ新品の状態。下の写真は塗装が剥がれて来ていますが、その剥がれ方がエナメル塗装とはあきらかに違います。



これらは黒鉛処理が出来なかった状況があったわけですので、黒鉛が無かったというのがおおかたの見方でしょう。
しかし時を同じくしてストレートロゴの黒鉛処理モデルも多数存在していますので、画一化されていたわけではなさそうです。

スピットファイヤー



左の写真の様に初めから未塗装で販売されたリールはスピットファイヤーと呼ばれています。
未処理の理由は黒鉛不足というのが有力なようです。さらにこの時代の特徴として、シングルチェックを採用しているところです。普通であれば MK II チェックが既に完成されていましたが、そこには時代的な事情があったのでしょう。
ブラックペイントもスピットファイヤーも構造的特徴はほとんど変わりはありません。
刻印もハンドル裏の同じ位置に JS(ジミースミス) とありますので、同じ時代に同じ人が作ったリールということでしょう。しかし何故か人気はスピットファイヤーに集中しています。



★全ての記事はあくまで主観と推測と偏見を交えていますので、間違っている箇所も多々あるかと思います。しかしリールは全て実際に手にしたものばかりです。その点はご理解の上、ご参考になれば幸いです。

HARDY FLY REEL
年表 ～1960年代

年代	HARDY製品	世界史	和暦	日本史
1873	HARDY社設立		明治6年	徴兵制開始
1879		エジソン、白熱電灯発明		
1886	★プラスパーミングムプレートリール			
1889			明治22年	大日本帝国憲法公布
1890	★PERFECT REEL			
1894			明治27年	日清戦争 ～1895年
1896	Contracted PERFECT(現行) 1896キャリバーチェック	第一回近代オリンピック		
1902			明治35年	日英同盟
1903	UNIQUEA ★BOUGLE ～1939			
1904			明治37年	日露戦争始～1905年
1905	★SPCIAL PERFECT ～1939		明治38年	ポーツマス条約
1906	PERFECT マイナーチェンジ 1906キャリバーチェック			
1908	★サイレントチェックPERFECT ～1910			
1911	St.George発売	辛亥革命		
1912	PERFECT マイナーチェンジ ★1912チェック	中華民国成立 タイタニック沈没	大正1年	大正天皇即位
1914		第一次世界大戦～1918	大正3年	第一次世界大戦
1917	PERFECT マイナーチェンジ 1917チェック			
1920	★St.George Salmon ～1924			
1921		中国共産党成立		
1922	PERFECT マイナーチェンジ MARK II チェック	ワシントン条約 ソビエト連邦成立		
1923	St.John		大正12年	関東大震災
1924	SUNBEAM ～1957			

1926			大正15年	昭和天皇即位
1927	★St.George マルチプ라이어 ～1939		昭和2年	
1929		世界恐慌始まる		
1931			昭和6年	満州事変
1932	★CASCAPEDIA ～1939			
1933		ニューディール政策		
1935	★BARTON REEL ～1939			
1936	LIGHTWEIGHT(初期型)		昭和11年	2. 26事件
1939	戦時中モデル発売 ★スピットファイヤー(未塗装) ブラックペイント	第二次世界大戦勃発	昭和14年	
1945		終戦	昭和20年	ポツダム宣言受諾
1950		朝鮮戦争		
1951	LRH LIGHTWEIGHT			
1958	ZENITH ～1980			
1959	FEATHERWEIGHT			
1961	FLYWEIGHT		昭和36年	南極観測
1962	StANDREW ～1969 PRINCESS			
1963		ケネディ大統領暗殺		
1964	StAIDAN HUSKY ～1969		昭和39年	東京オリンピック

年代はカタログ掲載年を参考にしています。
世界史、日本史のとの比較することで、その時代の背景を参考にして下さい。
ここでは PERFECT、UNIQUEA、ST. GEORGE、LIGHTWEIGHT シリーズの 60 年代までを表示しております。

★印のリールは生産数も少なくコレクターズアイテムになっております。